

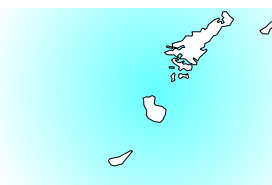
南の躍動

奄美のよさを生かした活力ある教育の充実

大島教育事務所 令和3年10月27日



【徳之島町】
旧山尋常高等小学校校舎



奄美のよさを生かした活力ある教育の充実をめざして～AIGs～

指導課長 富田 純一

なかなか終息に向かわないコロナ禍の中で、オリンピック及びパラリンピックが開催されました。それぞれに多くの感動や感銘を受け、学ぶところが多かったように思います。さて、オリ・パラを開催するにあたり、警察が取り組んだことの一つとして、「信号機のない横断歩道での歩行者優先義務」の意識高揚があります。欧米に比べ、なかなか車が停まってくれないと来日した外国人の声も報道等で目にしました。JAFの昨年度調査によれば、47都道府県の横断歩道での車の平均一時停車率は21.3%。鹿児島県はその平均を下回る18.2%。

その中で、ここ数年一時停車率が最も高いのが長野県で、2位を大きく引き離す72.4%。ある警察署長さんが、なぜ長野県がこのように意識が高いのかお話しになっていました。それは、子供の時、「親の運転する車に乗っていると、必ず横断歩道で停まっている」、「横断歩道では必ず車は停まってくれる」ので、自分が車の運転をするようになると、横断歩道で停まるのは当たり前だという意識が高いのだろうとのことでした。

このような話を聞くと、私たち大人の責任は重大であると再認識させられます。さらに、教育に携わる私たちには、子供たちの模範となる言動がより高いレベルで求められます。今年度は昨年度できなかった運動部や文化部の各種大会も行われ、大島地区からも陸上、バレーボール、柔道、相撲、吹奏楽部が全国大会に出場するなど、子供たちの素晴らしい活躍の様子が伝わり、誇らしく思います。また、日々の新聞報道等で、児童生徒の寄稿文や多くの特色ある取組が掲載される度に、大島地区の伝統文化や気風の素晴らしさに加え、それぞれの学校に勤務されている先生方の尊い御指導のお陰であると感謝の念に堪えません。

さて、前述した長野県ですが、圧倒的に高い数値でありながら、警察関係者は「本来100%でなければならぬ。裏を返せば30%近くが守れていないと言うことだ。」とも述べています。

このようなことから、私たち教育に携わる者は、現状に甘んずることなく、これまで以上に働き方改革（業務改善）の意識をもちながら、児童生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現のためのたゆまぬ取組を行い、その結果として、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指していきたいものです。併せて持続可能な「奄美のよさを生かした活力ある教育の充実～AIGs～」の取組が推進されることが、きらり輝く大島地区の児童生徒の育成につながっていくものと確信しています。



いじめの「認知」は「辛さの受け止め」

「いじめ」という言葉の重さから、積極的な認知について後ろ向きな気持ちが働いてしまうことはありませんか。現行法では、学校はいじめについて「発生件数」ではなく、「認知件数」を把握することとなっています。この件数は何を示すものでしょうか。以前であればいじめに関して「自分より弱者」「一方的に」「継続的に」「深刻な」という言葉が付いていましたが、今はありません。つまり、他者からの見立て等に関係なく、どのようなことであっても児童生徒本人が心身の苦痛を伴えば、それが「いじめ」となります。認知件数は、それに学校が気づき、児童生徒の話聞き、寄り添った件数を示します。言い換えれば、「学校が児童生徒の辛さを受け止めた件数」とも言えます。

「認知件数が多いことは、先生方の目が行き届いている証」と言われます。いじめを0にすることは決して易しいことではありませんが、生命に関わるような重大事態になるようなことは絶対に0にしなければなりません。これからも敏感に児童生徒の辛さを受け止めて、その辛さが大きくならないよう、個に応じて寄り添った対応をお願いします。

大島教育事務所ホームページ

大島教育事務所

検索

奄美の文化財等

旧山尋常高等小学校校舎

昭和4年に建設された校舎は、面積が65.4㎡の鉄筋コンクリート2階建です。外観壁面は等間隔に横目地を切り、四隅の柱を強調し、入り口には庇があります。内部前面に玄関や階段を配し、各階の奥を教室とする島内現存最古の鉄筋コンクリート造学校建築です。

7月に開催された国の文化審議会の文化財分科会において、造形の規範となっているとして、新たに文化財に登録するよう、文部科学大臣に答申を行いました。

この結果、11月に行われる官報告示を経て、町内初の登録有形文化財（建造物）になる見込みです。

「授業改善の取組」と「演習問題の取組」は、学力向上の両輪 ～令和3年度全国学力・学習状況調査の結果から～

今年度5月27日(木)に実施された全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。大島地区の結果は、小学校では、県平均とほぼ同等の結果であり、中学校では、国語、数学ともに前回よりも県平均との差が縮まっています。今後も、児童生徒が「なりたい自分になれる」ために、授業改善と演習問題の取組による学力向上を、尚一層充実させる必要があります。

□ 全国学力・学習状況調査結果

[正答率]の県平均との比較
(太字は、前回より差が縮まったもの)

校種	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
R 3	±0	-1	-2	-3
H31(R元)	-1	±0	-5	-8

□ 児童生徒質問紙質問項目34の国及び県との比較

小5, 中1・2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか。[「当てはまる」と回答した児童生徒の割合]

小学校			中学校		
地区	県	国	地区	県	国
21.8%	21.4%	23.8%	10.9%	13.1%	17.9%

大島地区の児童生徒の誤答傾向等を見てみると、各学年において身に付けなければならない知識や技能が定着しておらず、根拠に基づいた自分の考えを記述する問いに弱い傾向があります。右上の表に示した児童生徒質問紙の回答割合を見てみると、自分の考えをまとめたり、新しいものを作り出したりする活動が少ないことが分かります。書く活動が、思考力、判断力、表現力等の育成につながります。大島の教育Pamphlet 1に示したように、授業の山場においては、自分の考えを書くことでしっかりと可視化させ、考えの共有(学び合い)で指導内容に応じた対話活動を充実させていく必要があります。そして、児童生徒の身に付いていなければならない力が確実に付いたのか、演習問題で確認し、児童生徒一人一人に「分かるようになった・できるようになった」と実感させる授業を積み重ねていきましょう。

「体力アップ! チャレンジかごしま」前期ランキング

仲間と楽しく協力し合いながら記録に挑戦する「体力アップ! チャレンジかごしま」の前期結果が鹿児島県教育委員会のHPに公開されました。この「体力アップ! チャレンジかごしま」の実施種目は小学校7種目、中学校5種目あり、学校や児童生徒の実態に応じて種目を選択して取り組むことができます。

令和3年度(前期)の大島地区の取組状況は小・中学校ともに昨年度を上回り小学校77.1%, 中学校65.2%でした。仲間と楽しく協力し合いながら記録に挑戦することで、体力の向上が図られるとともに、学級の絆がより深まります。そのため、後期は取り組む学校が更に増えることを期待しています。

【前期県10位以内に入った本地区の学校数】 小学校24校, 中学校18校



令和3年度大島地区ジュニア・リーダー研修会及び交流大会

令和3年7月28日(水)~30日(金)に、組織の運営等に必要な知識・技能に関する研修を行いながら、自ら主体的に取り組むジュニア・リーダーを育成するために、県立奄美少年自然の家、環境省奄美野生生物保護センター、フォレストポリスを会場として、標記研修会及び交流大会が開催されました。

今年度は10市町村から28人の参加者があり、講義、演習、創作活動、実技、グループ協議、自然体験学習等、多岐に渡る活動を通して、充実した3日間を過ごすことができました。

[参加者の感想]

- ・ ジュニア・リーダーの目的と役割を理解することができ、自覚が生まれた。
- ・ 人権の学習を通して、個々の価値観の違いを認め合うことの大切さを感じた。
- ・ レクリエーション活動でみんなと一気に仲が深まった感じがした。学校でも友達とやってみたいと思った。



(講義の様子)